

お客さまに安心をお届けするために、 引き続き財務健全性の向上に努め、安定的な成長の実現をめざします。

ソルベンシー・ マージン比率

予測を超えたりスクにも対応できる
支払余力を確保しています。

1,251.7% ▶ 詳しくはP3を
ご覧ください

実質純資産額

健全な経営を維持していくための
純資産額を堅持しています。

3兆6,998億円 ▶ 詳しくはP3を
ご覧ください

含み損益 (一般勘定資産全体)

堅実な資産内容で1兆円を大幅に上回る
含み益を確保しています。

1兆6,572億円 ▶ 詳しくはP4を
ご覧ください

保険料等収入

みなさまにご支持いただき
前年同期比15.2%の増収となりました。

1兆8,034億円 ▶ 詳しくはP5を
ご覧ください

基礎利益

上半期の基礎利益は
前年同期比21.8%の増益となりました。

1,639億円 ▶ 詳しくはP6を
ご覧ください

格付

健全な財務内容で、格付会社から
高い評価を得ています。

「格付」とは、会社の収益力・財務状況などを、さまざまな角度から
総合的に評価し、わかりやすい記号で表わしたものです。 (平成22年11月1日時点)

格付投資
情報センター(R&I)

保険金支払能力

AA-

日本格付研究所
(JCR)

保険金支払能力格付

A+

スタンダード&プアーズ
(S&P)

保険財務力格付け

A-

フィッチ・
レーティングス

保険会社財務格付

A

*「保険金支払能力」は、保険会社の保険債務が約定どおりに履行される確実性についての意見です。
「保険財務力格付け」は、保険契約の諸条件に従って支払いを行なう能力に関して保険会社の財務
内容を評価した意見です。「保険会社財務格付」は、保険会社の財務力についての評価を表わすも
ので、保険契約者債務にかかる保険会社の支払能力に対して付与されます。
*左記の格付は、当社が依頼して取得したものです。
*格付は、個別の保険契約の加入・解約・継続を推奨するものではありません。
*格付は、左記時点での格付会社の意見であり、将来的に変更・保留・撤回されることがあります。

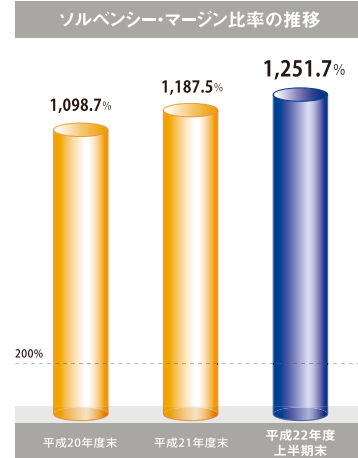
ソルベンシー・ マージン比率

1,251.7%

**予測を超えたリスクにも
対応できる支払余力を
確保しています。**

ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の暴落など、通常の見込みを超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。この数値が200%を下回った場合は、監督当局による業務改善命令等の対象となります。

平成22年度上半期末のソルベンシー・マージン比率は1,251.7%（前年度末差64.2ポイント増）と、引き続き1,000%を超える水準となっています。



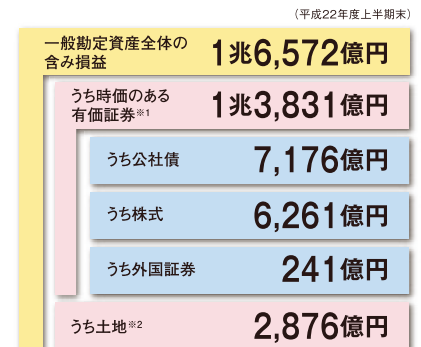
含み損益 (一般勘定資産全体)

1兆6,572億円

**堅実な資産内容で
1兆円を大幅に上回る
含み益を確保しています。**

含み損益とは、保有している資産の時価と帳簿価額との差額を指し、保険会社の企業体力を表わすものの一つです。

平成22年度上半期末は、一般勘定資産全体で1兆6,572億円（前年度末差1,772億円増）の含み益を確保しています。



※1 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱ふことが適当と認められるものを含んでいます。
※2 土地には借地権を含んでいます。

国内株式含み損益ゼロ水準

平成22年度上半期末における当社が保有する株式の含み損益がゼロとなる水準は、日経平均株価で6,900円程度となっています。

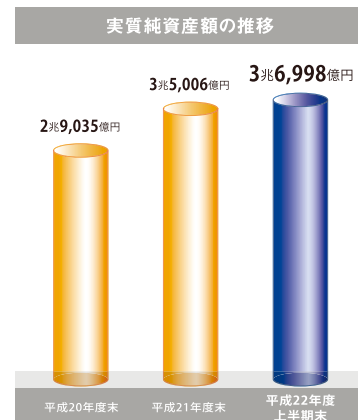
実質純資産額

3兆6,998億円

**健全な経営を
維持していくための
純資産額を堅持しています。**

実質純資産額とは、有価証券や不動産等を時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いたものであり、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。

平成22年度上半期末の実質純資産額は3兆6,998億円（前年度末差1,991億円増）と、一般勘定資産に対する比率は14.8%となっています。

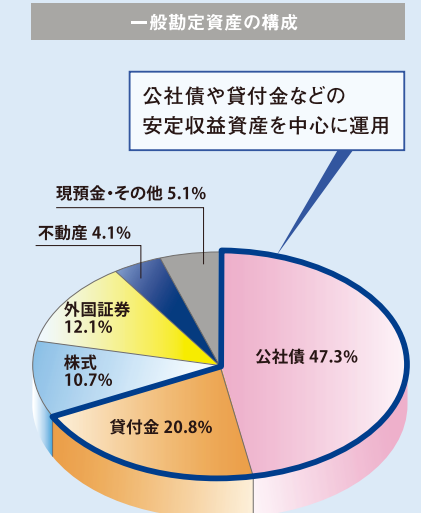


資産の構成

**長期・安定的な収益を確保するため、
公社債や貸付金などを中心に
運用しています。**

当社の資産運用は、お客さまへの将来の保険金・給付金等を確実にお支払いするために、良好な運用成果を長期にわたり安定的に確保することを目的としています。運用にあたっては、公社債や貸付金といった安定収益資産を中心に配分を行ない、お客さまへのお支払いに備えています。

引き続き、良好な運用成果の確保と資産健全性の維持・向上に努めていきます。



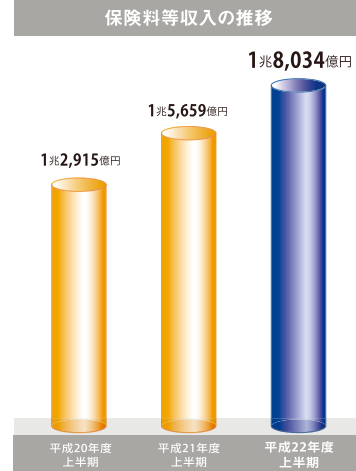
保険料等収入

1兆8,034億円

みなさまにご支持いただき
前年同期比15.2%の
増収となりました。

保険料等収入とは、ご契約者から払い込まれた保険料による収益で、生命保険会社の収益の大部分を占めています。

平成22年度上半期の保険料等収入は、合併以来、過去最高となる1兆8,034億円で、前年同期比15.2%の増収となりました。これからもいっそうお客さまにご満足いただける取組みに努め、安定した成長をめざします。



基礎利益

1,639億円

上半期の基礎利益は
前年同期比21.8%の
増益となりました。

基礎利益とは、保険料等収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表わす指標です。

平成22年度上半期の基礎利益は1,639億円と、逆ざやの大幅な改善により前年同期比21.8%の増益となりました。

*基礎利益から、有価証券等の売却損益・評価損や、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを加減した最終的な剰余を、事業年度末決算において定款にしたがい配当としてご契約者に還元しています。

基礎利益の内訳(三利源) (単位:億円)

	平成20年度上半期	平成21年度上半期	平成22年度上半期
基礎利益	1,859	1,345	1,639
費差	457	229	190
危険差	1,703	1,535	1,509
逆ざや	△302	△419	△60

*平成21年度決算より、危険差および費差の算出を一部変更しています。基礎利益および逆ざやについては変更ありません。

費差

保険料算定時に想定した事業費率に基づく事業費支出予定額と実際の事業費支出額との差額

危険差

保険料算定時に想定した保険事故発生率に基づく保険金・給付金等支払予定額と実際の保険金・給付金等支払額との差額

逆ざや

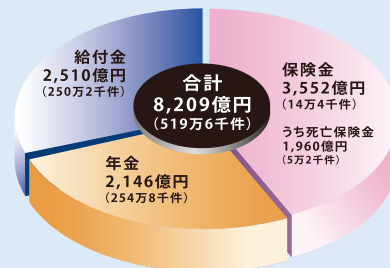
保険料算定時に想定した利率に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額

お役に立った保険金・年金・給付金

8,209億円

平成22年度上半期にお支払いした保険金・年金・給付金の合計額は8,209億円でした(1日あたりのお支払いは約44億円)。これからも確実・迅速なお支払いに努め、お客さまに確かな安心をお届けします。

*給付金には、入院給付金・手術給付金のほか、ハッピー-L.A.ボーナスやお祝金なども含んでいます。



(平成22年度上半期)

当社では、お支払い業務における重層的なチェック体制やお客さまへの充実したご説明の実施等、お支払いもれやご請求案内もれない支払管理態勢を構築しています。また、「安心サービス活動」を通じて、保険金・給付金などのご請求がないかを確認する等、確かなお支払いに取り組んでいます。詳細については当社ホームページをご覧ください。

明治安田生命保険相互会社ホームページ <http://www.meijiyasuda.co.jp/>

基金について

基金の総額は、4,700億円となりました。

「基金」とは、株式会社の資本金に相当する性格を持つ資金で、相互会社の財産的基礎となるものです。

当社では、平成22年7月に基金600億円の償却(償還)および再募集を行ない、基金の総額(基金と基金償却積立金の合計額)は4,700億円となっています。今後も、保険会社を取り巻くさまざまなリスクに備え、お客さまの保険契約を確実に履行するために、さらに健全性の高い経営基盤の構築に取り組んでいきます。

●基金償却積立金

相互会社が基金を償却する場合に、保険業法の規定により積み立てを義務付けられている積立金です。基金の償却額と同額の積み立てが義務付けられています。

基金・基金償却積立金の推移

